



こかげのにちじょう⑤

～児相による、保護者や子どもの「意向確認」～

鳴海 明敏

8月某日

連日の猛暑。青森の夏で、こんな長い期間の30度越えは経験したことがない。日本全国、世界中が猛暑なんだろうなあ。世界陸上のブタペストも暑そう。

分教室に通う小・中学生は、今日が二学期の始業式。実は、一日前の昨日が「登校日」だった。夏休みが一日少なくなるじゃん。子どもたちかわいそう。と思ったけど、昨日の、登校前の、「制服は?」、「宿題は?」という朝のバタバタの様子を聞くと、やっぱり子どもたちと職員にとっては、心の準備とリハーサルのために「事前登校」は必要だったのだろうかあと納得した。その甲斐あって、今朝の登校は、スムーズだったらしい。

学園の入所定員は30名だが、昨年度4月に25名でスタートして、なかなか入所児童がなく、最終的には26名で年度末を迎えた。年度末に10名ちょっとの子どもが退所し、その後も退所が続いて、何人か新入所児童はあったものの、現在は18名である。このまま行くと、コロナの件を考慮してもらったとしても、来園度は確実に暫定定員になりそうな気配で少し焦っている。暫定定員が適用されて、定員から一人少なくなれば、年間で500万円程度の減収になるので、なかなか厳しい。

全児心では、現行の「入所実績が、定員の90%を下回れば暫定」という基準を、80%～70%程度に緩和してくれるように、国に毎年要望を出しているが、理解は示すものの、改善される見通しはない。「こども家庭庁」になって、なんか変化が起きるだろうか?

県内外の児相から、入所の可否について打診があったり、親子を伴っての施設見学もあり、

今週末にも高校生男児が入所する予定。来月にかけて、もう2～3人の入所が予定されていて、全く動きがないわけではない。

児相とのやり取りの窓口は支援課長が担当しているのだが、その経過報告を聞きながら、不審に思うことがある。それは、「親が、入所に難色を示しているので・・・」とか、「保護者や子ども本人の意向を確認してから、連絡し直します」という児相担当者の説明である。

保護者や子ども本人の「意向の確認」が必要である、ということは重々承知しているが、どうも、最近の福祉司さんは、手順を勘違いしているのではないかと思うのである。

以前児相に居た私の理解では、子どもを施設に入所させる措置をとる場合は、親や子どもや関係機関への調査（社会診断）や、心理診断、医学診断、一時保護所の行動診断が出そろったら、それらを基に、児相として、施設に入所することが必要であるかどうか、この施設が適当であるかどうか、という判断（判定）がをして、その児相の判断（判定）についての、保護者や子ども本人の「意向（同意・不同意）」を確認する、という流れになっているものと理解していた。

しかし、こここのところの福祉司さんの対応を聞くと、「保護者が施設に入所させて欲しいというので、措置します」とか、「子どもが反対して、それで保護者が動揺しているようなので、もう一度、保護者と児童の意向を確認します」というような説明をしていると言うことらしい。これでは、児相は単なる御用聞きではないか、と私は思ってしまうのだが・・・

私が、児相で仕事していた頃も、虐待の相談件数が、毎年前年を上回り、マスコミから叩かれ続けていた時期だったが、最近は、その当時の比ではないらしい、ということは聞いている。業務量の増大に対応するために職員が急増して、職場研修もままならないということも聞いてはいるが、これはちょっと違うんじゃないの、と思う今日この頃ではある。

（了）